

指定管理施設の管理運営状況のまとめ(令和元年度分)

施設名 松江市宍道ふるさと森林公園・来待ストーン
 指定管理者 一般財団法人宍道湖西岸森と自然財団
 担当課 観光施設課
 指定期間 平成28年4月1日～令和3年3月31日

1. 総合評価

市	A	【優れていると評価した点】 ・両施設とも施設の適切な維持管理を行い、利用者ニーズの把握、施設の魅力を生かした利用促進や地域活動への積極的参加を通してPRと利用者確保に努めている。 ・森林公園では、インターネットを活用し集客を図ったことは評価できる。指定管理事業収支は、施設利用料収入は前年より増となったものの手数料や委託費等支出の増により赤字となった。一方、自主事業はブライダル事業の増収により黒字となり、法人としては黒字決算となった。 ・来待ストーンでは、体験工房の常設体験が定着し、利用者に好評であったことは評価できる。また、「地元宍道町の地域おこしに関する行事へ参加し、地域貢献も積極的に行った。 【評価できない、または改善すべき点】 ・月報の提出が遅れることがあるため、期限内に提出してもらいたい。 ・来待ストーン陶芸館専門スタッフの早期確保を図り、通常営業を再開し利用者増につなげてもらいたい。
---	---	---

指定管理者	A	【優れていると評価した点】 (共通) ・利用者からの要望や施設の老朽化を踏まえ、具体的な施設改修について、松江市へ提案した。 ・Twitterなどsnsを活用し、施設の情報発信や利用促進策を周知し、安定した利用者を確保した。 ・安定した経営及び利用者の満足度向上に向け自主事業も積極的に展開し、法人として黒字決算となった。 ・法人の財源を用いて、施設のエアコンの改修やスポットクーラーを設置するなど、利用者が安全・安心して利用できる施設運営を行った。 (森林公園) ・消費税増税に伴う施設利用料金の値上げによる利用が減少することも予想されたが、10月以降も安定して利用を獲得することができた。ブームによるアウトドア需要の増加も要因であるが、キャッシュレス決済の導入や消費者還元制度への申請等に取り組んだ成果であると考えられる。 (来待ストーン) ・体験工房の常設体験が定着し、好評いただいた。また、ミュージアムの特別企画展を7月～9月までロングランで開催し、リピーター来館も多かった。 【評価できない、または改善すべき点】 (森林公園) ・キャッシュレス決済の増加やオンライン予約の増加による予約代行業者への手数料が増加している。今後、これらの手数料が経営を圧迫させないための対策を検討する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う影響については、3月に予約のキャンセルが相次いだ。 (来待ストーン) ・陶芸館は、平成28年度から曜日限定(金・土・日・月)の開館となっている。個人の施設使用は増加しているが、通常の陶芸体験などは大きく減少している。 ・全館とも2月末から新型コロナウイルス感染症の影響があり、3月以降の団体のキャンセルが相次いだ。
-------	---	--

2. 施設利用の増減について

総括	・利用者数は、森林公園が171,301人(対前年比79.6%)、来待ストーンが23,846人(対前年比66.6%)と前年度を下回った。来待ストーンについては、新型コロナウイルスの影響で2、3月の団体利用が減少した。 ・両施設とも利用者数は減少しているが、森林公園については、利用料収入は前年度より2,252千円(5.3%)増加した。一方、来待ストーンについては、前年度より257千円(4.7%)減少した。
----	---

(1) 収支状況の推移 (自主事業を除く)

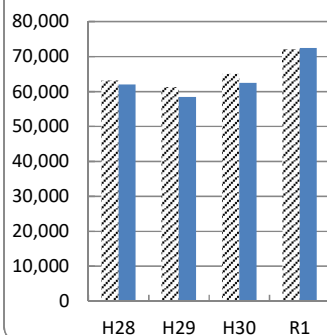
(千円)

項目\年度		H28	H29	H30	R1
施設の収支	収入	63,240	61,340	65,014	71,967
	うち指定管理料	20,613	16,878	16,827	21,831
	うち利用料	42,609	44,462	48,187	50,093
	支出	62,021	58,403	62,472	72,471
	差引	1,219	2,937	2,542	△ 504

上記以外の市の収入、支出

市の収支	収入(使用料)	353	284	379	222
	支出	5,893	1,225	2,517	2,628
	うち市の修繕費	1,819	399	433	738

※利用料金制を採用 収入 支出

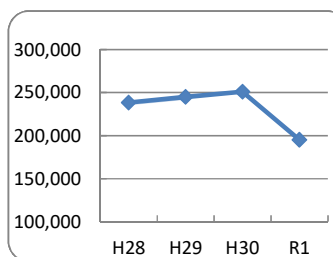


(2) 利用者の推移

(人)

H28	H29	H30	R1
238,241	245,069	251,003	195,147

※施設の総入場者数



【参考】産出指標(アウトプット)・成果指標(アウトカム)の達成状況

指定管理者が管理する公の施設は、市の施策を実現するために設置されたものですが、その設置目的の多くは抽象的なものとなっています。この設置目的を効果的に実現するためには、市が目標(指標)を具体的に示し、指定管理者と共有した上で施設の管理運営を行うことが大切です。

さらに、目標(指標)がどれだけ達成されたかを客観的に評価するため、指定管理者の活動の結果(アウトプット)や活動からもたらされた成果(アウトカム)を数値化し、市民の皆さんへ公表します。

- 〔 A 基準値 : 指定管理者募集の際に、市が提示した指標の値
- 〔 B 目標値 : 市が提示した基準値に対し、申請時に指定管理者が提案した値
- 〔 C 実績値 : 実績の値

分類	指標	A 基準値	B 目標値	C 実績値	目標に対する 達成度 C/B	基準に対する 達成度 C/A
アウトプット	ふるさと森林公園 年間宿泊者数(H23～ 26年度の平均値の90%)	49,844	58,000	60,372	104.1%	121.1%
	来待ストーン 年間利用者数(H23～ 26年度の平均値の90%)	27,168	32,000	23,846	74.5%	87.8%
	モニタリング(満足度)%	70	75	85	113.6%	121.7%
アウトカム	宍道地区の年間観光入 込客数	335,560	387,830	382,433		
				達成度 平均	97.4%	110.2%

	指定管理者	市
達成度 に対する 意見	【達成度に寄与した・有効だった取組みの内容、次期に向けた課題】 (森林公園) 令和元年度から新たに星空観察会や草木染体験など、施設の魅力を高めるイベントを開催した。 (来待ストーン) 各種体験イベントの積極的な実施や県内外の博物館施設と連携し、学芸員向けの研修に参加し、展示内容や管内案内のスキルアップに努めた。 (共通) 両施設ともに新型コロナウイルスの影響は甚大で、3月はキャンセルが相次いだ。今後は利用者の確保に向け、安心して利用できる施設運営が求められると考える。	【達成度の原因・分析】 ふるさと森林公園については、基準値及び目標値を大きく上回っている。来待ストーンについては、新型コロナウイルスの影響もあり基準値及び目標値を下回っている。 また、モニタリング(アンケート)回収数は目標値を上回っている。 インターネットの活用した広告宣伝や自主事業に注力し集客に努めた点は評価できる。

(3)利用者アンケート

回答数	施設職員の対応・態度等、施設管理やサービスについて	主な意見
3,038	①満足している (85.2%) ②どちらともいえない (13.1%) ③満足していない (0.1%)	①良い (森林公園) ・手軽にキャンプ気分が味わえるのがとてもよく、子ども「今までで一番良かった」と今回の旅行に大満足でした。 ・リーズナブルな料金で貸し切りできてとてもくつろげました。 ・トイレもウォシュレットだったので二重丸です。 (来待ストーン) ・学芸員の案内が分かりやすかった。 ・石のことが分かりやすく説明してあって良かった。 ・名前しか知らなかった来待石について勉強できて面白かった。 ②苦情 なし。 ③要望 (森林公園) ・ペンションなので虫は仕方ありませんが、何か対策してほしい。 (来待ストーン) ・石の展示をもう少し明るく照らしてほしい。

(4)住民サービス向上の事例

(森林公園) ・喫茶事業として、地域で開催されるイベントに出店した。 ・イベント事業として、小学生を対象としたキャンプスクール・星空観察会やピザ作りなどの日帰り体験イベント等を実施した。 ・自主事業の収益の一部を(公社)島根県緑化推進委員会を通して寄附し、地域の緑化に貢献した。 (来待ストーン) ・イベント事業として、地域の活動に来待石に関わる各種出張体験を実施した。
--

3. 自主事業

総括	・積極的な自主事業実施により、サービス、魅力向上が図られており、利用促進や利用者拡大につながっている。 ・両施設ともに自主事業で黒字を確保しており、安定した経営、施設運営にもつながっている。
実施状況	(森林公園) ・森林環境保全思想の普及啓発事業及び各種調査研究事業、喫茶事業、ブライダル事業、各種体験イベント(キャンプスクールやピザ窯体験など) (来待ストーン) ・来待石及び来待石産業の普及啓発事業(国引きジオパーク推進、ペンダント作り出張体験など)、ブライダル事業、来待石及び本館のPR活動(各種イベントに参加)、物販事業

4. 特記事項

・来待ストーン陶芸館について、指導員不足による縮小営業が続いており、通常営業再開が望まれる。
--

5. 今年度の目標・課題

・5年間の指定管理における4年度目であったが、引き続きの指定管理者でもあり、混乱もなく業務を実施できている。 ・最終年度は、令和3年度のリニューアルオープンに向け、整備事業を実施していく予定である。 ・今後も効果的なPRや集客事業を継続するとともに、アンケート等で利用者の需要を把握し、改善を続ける必要がある。
